

# 県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」平成29年9月22日発行（特別号）

## やってみよう！



### 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学力向上に向けた取組

平成29年8月28日(月)、全国学力・学習状況調査の調査結果が公表されました。本調査の趣旨は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、確かな学力の定着や学習状況の改善に役立てるということです。

各学校では、児童生徒一人一人の学習状況の把握・分析が進められていることと思います。自校の課題を明らかにして、全職員で共通理解を図り、授業改善を中核とした学習指導の充実を図りましょう。

1学期に、各市町教育委員会を通して、平成29年度全国学力・学習状況調査分析報告書（茨城県抽出）活用例を配付いたしました。全職員で、活用例で示した以下のような取組を行っている学校は、着実に成果が表れてきています。自校の進捗状況を確認し、不足している点があれば、改善を図りましょう。

- 正答率や解答類型について県と自校を比較し、自校の課題（つまずき）を明らかにして、全職員の共通理解を図っている。
- 特に課題のある単元や問題については、「関連する教科書頁」を参考にして、教科書にマークを付けるなどして意識化を図っている。
- 「分析結果と課題」、「学習指導に当たって」、「関連する授業アイデア例」を参考にして、各学年の単元計画の見直しや授業構想を行っている。

### 授業改善の検証と学習内容の定着に向けた取組



#### 1 2学期中、計画的に取り組みたいこと

- 調査結果を踏まえて構想した授業を実践し、単元末テストや類似の練習問題等により成果の検証をする。
- 補充・発展の時間や家庭学習等により、児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図る。
- 始業前や放課後等を利用し、全国学力・学習状況調査で課題の見られた問題に再度取り組ませ、一人一人のつまずきを明らかにし、学力診断のためのテストに向けて補充学習をする。

#### 2 「学力アップ問題Ⅰ～Ⅶ」を効果的に活用するために

「学力アップ問題」は、過去の全国学力・学習状況調査の分析結果から、児童生徒のつまずきを踏まえ、出題のねらいや問題の形式（問われ方）等、全国学力・学習状況調査と関連付けて作成したものです。

〈ダウンロード先〉 教育情報ネットワーク → 文書通知 → 義務教育課  
→ 「学力アップ問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ」

#### ◎ 活用方法の3ステップ（○ 教師の取組 ☆ 期待される児童生徒の姿）

- |      |   |
|------|---|
| 第1段階 | ○ 出題の意図を把握せず、宿題等で子供に任せきりになっている。<br>☆ 自分で採点し、どこができたか、できなかったかを確認している。                     |
| 第2段階 | ○ 全職員で出題の意図を把握し、自校の課題を踏まえ、教育課程に位置付ける。<br>☆ できなかった問題に対して、どうしてできなかったのか、つまずきに気付く。          |
| 第3段階 | ○ 児童生徒の誤答からつまずきを明らかにして、単元計画や授業構想を見直す。<br>☆ できなかった問題について、友達と話し合うなどして解決方法を知り、問題を解くことができる。 |

成果  
小  
↓  
大

#### 3 11月の学力診断のためのテスト（中学校3年生）に向けた授業改善のポイント

##### 【国語】【現代語訳などを参考にしながら古典を読む】

- ・ 現代語訳を読んで古典の文章の内容をおおまかに捉える。
- ・ 主語、会話文、言葉のまとまりや意味などを意識しながら、登場人物や作者の思いを想像する。

##### 【数学】【事柄が成り立つ理由を筋道立てて考え、証明することができるようにする】

- ・ 結論を導くためには何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理する。
- ・ 着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道立てて考える。

## 誤答から見えてくるつまずきを踏まえた授業改善例

### 【国語】 【表現の仕方について捉え、自分の考えを書く】平成29年度 中学校国語B 1三

青山さんは、【本の紹介カード】にある「比喩を用いた表現」に着目して、【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどをあとの【読書の記録】に書いています。あなたなら【読書の記録】の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件 1 〈心に残った一文〉は、【本の一部】から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件 2 〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、「誰の（何の）」「どのような」様子なのか明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【条件1, 2を満たして解答しているもの 42.3%】

【主な誤答】 **比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出していない。【23.2%】**

**〈感想〉に、「誰（何の）」の、「どのような」様子なのか明確に書いていない。**



【考えられる生徒のつまずき】

- ・「比喩」という言葉の意味が分からないので、比喩を用いていない文を書き抜いている。
- ・「一文」という言葉の意味が分からないので、途中で文を書くのをやめている。
- ・文章中で、主語は何なのか、また、比喩が含まれている部分は、どのような様子を表しているのか、捉えることができていない。

【学習指導に当たって】

- ・自分の好きな本の中から、印象に残った表現や描写について具体的に説明する場を設定する。そして、印象に残った理由を、「比喩や強調などの表現技法」に着目させながら説明する。（朝の読書の時間 授業の導入場面）

○比喩 <直喩法> 時が矢の**ように**すぎた。 <擬人法> 木はささや**いている**。

○強調 <反復法> **寒い**。できるかぎり身体を丸め毛布をかきよせる。**寒い**。言いがたい異様な寒さである。

- ・一文を文章中から抜き出したり、一文で要約したりする条件を付けて、作文を書かせる。
- ・文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際に、なぜそのように感じたのか、文章中のどこからそのように考えたのか、根拠を明確にして書く言語活動を行う。（授業での交流の場面）

### 【数学】 【平面図形の基本的な性質】平成29年度 中学校数学A6

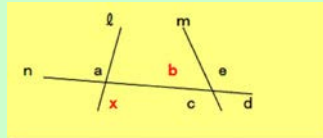
次の図で、2つの直線 $l$ ,  $m$ に1つの直線 $n$ が交わっています。このとき、 $\angle x$ の錯角について、

下のアからカまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア  $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ である。 イ  $\angle x$ の錯角は、 $\angle b$ である。【正答：42.6%】

ウ  $\angle x$ の錯角は、 $\angle c$ である。 エ  $\angle x$ の錯角は、 $\angle d$ である。

オ  $\angle x$ の錯角は、 $\angle e$ である。 **カ  $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ から $\angle e$ までの中にはない。【主な誤答：32.8%】**



【考えられる生徒のつまずき】

- ・同位角や錯角は、2直線が平行な場合について扱うことが多いため、同位角や錯角は平行線でのみ存在しており、角の大きさは等しいと理解している。

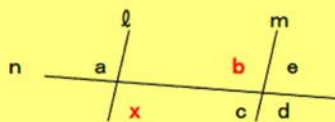
【学習指導に当たって】

- ・平行でない2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角と、平行な2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角について、2つの図を比較して、同位角や錯角の位置関係を捉える活動を取り入れる。

平行でない2直線に1直線が交わる場合



平行な2直線に1直線が交わる場合



（授業での比較検討場面）

- ・先生方が想定する生徒のつまずきと、全国学力・学習状況調査の採点・分析結果が一致するとつまずきに対する手立てが的確になり授業づくりが変わってくる。